

## 論拠に基づく都市空間デザイン [高松 誠治 (専門分野: 都市空間デザイン)]

FellowLink 倶楽部 2014/08/01 #13 に寄稿

都市空間。それは私たちが日々、移動し、買物し、人と出会う、生活の舞台です。それは、私たちの人生に、大きな影響を与えるものにもかかわらず、(特にわが国では)あまりその機能・状況や質に注意を払われていないように見えます。

デザイン。それは、カッコいいとか、美しいものをつくることとされているかもしれませんが。センスのいい誰かが、芸術的才能を発揮して、主観に基づいてつくるものという理解が多いでしょう。

私の仕事は、「都市空間」について、論拠に基づいて「デザイン」の方向性や計画・設計案の良否を評価し、助言・改善提案する仕事です。え？都市空間のデザイン？デザインの論拠？そんなものがあるの？と思われるかもしれませんが。実際、ちょっと特殊な仕事です。

都市空間のデザインというと、道路や街並みを美しくつくることを連想されることと思います。そしてそれは、通常の計画・設計とは別の、付加的な作業と思われるかもしれませんが。しかし、都市空間デザインにとって、もっと重要なのは、「空間」の構成です。街路と街路の関係、街路と公共空間の関係、また、それらと建物・施設との関係、施設機能の空間配置、そして何より、それらと「人」との関係について考えることです。

街路の構成パターンは、移動する人の分布を決定づけます。自然に人が通りやすいところでは、沿道での小売業が成立します。人通りが極端に少ないところでは、特定の犯罪リスクが増加する可能性があります。広場的な空間は、人々の滞留を促し、直接的・間接的な「交流」の場となります。街の雰囲気や現すポジティブな場となる反面、デザインを誤ると、不法占拠や違法駐輪、反社会的な活動の場にもなるのです。

空間の配置、関係性などの重要性は、商業施設内のレイアウトを見ればわかるでしょう。迷いやすく、どこに何があるかわかりにくい施設、一部分だけが繁盛していて他が空きだらけの施設、局所的に混雑して歩きにくい施設・・・これらの多くに、空間構成の問題が関係しています。

私は、ロンドン大学で開発された手法を用いて、「空間構成の指標化・可視化」、「人間の行動観察と分析」、「空間デザインのノウハウ・知見」を融合した、独自のコンサルティングを行っています。現況の調査分析と場所のポテンシャル解析という論拠に、デザイン的な経験を加えて、より好ましい計画案を提案しています。イギリスでの勤務時には、ロンドン・トラファルガー広場の再生プロジェクトや、多くの再開発マスタープランなどのプロジェクトに携わりました。帰国後は、大型商業施設のレイアウト分析や、中心市街地の賑わいづくり検討などに関わっています。

「造る」から「使う」へ、という言葉に耳をします。ただ、空間構成に問題があると、うまく使うことはできません。しっかりと分析的に捉えて、適切な改造、改良を行うことによって、場所の質を高め、「価値」をつくることができます。本当の意味での「スマート」な生活ができる街をつくってきたいものです。

▼関連参考サイト：スペースシンタックス・ジャパン株式会社

◇<http://www.spacesyntax-japan.com/>